

1. 微分形式の幾何学への入門

ユークリッド空間の領域上の微分形式とその外微分

ユークリッド空間 $\mathbf{R}^n$ の領域 D で定義された 1 次微分形式 ω は、座標関数 $x_1, \dots, x_n$ を用いて

$$\omega = a_1 dx_1 + \dots + a_n dx_n$$

と表される。ここで、 $a_1, \dots, a_n$ は D で定義された C^∞ 関数である。

一般に D 上の p 次数微分形式 ω は

$$\omega = \sum_{i_1, \dots, i_p} a_{i_1, \dots, i_p} dx_{i_1} \wedge \dots \wedge dx_{i_p}$$

と表される。ここで、 $a_{i_1, \dots, i_p}$ は D で定義された C^∞ 関数で、 $dx_1, \dots, dx_n$ のウェッジ積は外積代数の関係式

$$dx_i \wedge dx_j = -dx_j \wedge dx_i$$

を満たす。

上の p 次微分形式 ω について、その外微分 $d\omega$ を

$$d\omega = \sum_{i_1, \dots, i_p} da_{i_1, \dots, i_p} \wedge dx_{i_1} \wedge \dots \wedge dx_{i_p}$$

で定める、これは D 上の $(p+1)$ 次微分形式である。外微分 d は $d \circ d = 0$ を満たすことが確かめられる。 $d\omega = 0$ を満たす微分形式 ω を閉形式とよぶ。また、ある微分形式 φ を用いて $\omega = d\varphi$ と表されるとき、 ω を完全形式とよぶ。完全形式は閉形式となる。

3 次元の場合の具体的な表示

$n = 3$ のとき、微分形式の外微分を計算してみよう。1 次微分形式

$$\omega = a_1 dx_1 + a_2 dx_2 + a_3 dx_3$$

の外微分は

$$d\omega = \left(\frac{\partial a_3}{\partial x_2} - \frac{\partial a_2}{\partial x_3} \right) dx_2 \wedge dx_3 + \left(\frac{\partial a_1}{\partial x_3} - \frac{\partial a_3}{\partial x_1} \right) dx_3 \wedge dx_1 + \left(\frac{\partial a_2}{\partial x_1} - \frac{\partial a_1}{\partial x_2} \right) dx_1 \wedge dx_2$$

と表される。これはベクトル解析におけるベクトル場

$$\mathbf{a} = a_1 \frac{\partial}{\partial x_1} + a_2 \frac{\partial}{\partial x_2} + a_3 \frac{\partial}{\partial x_3}$$

の $\text{rot } \mathbf{a}$ に対応する。

また、2 次微分形式 $\omega = b_1 dx_2 \wedge dx_3 + b_2 dx_3 \wedge dx_1 + b_3 dx_1 \wedge dx_2$ の外微分は

$$d\omega = \left(\frac{\partial b_1}{\partial x_1} + \frac{\partial b_2}{\partial x_2} + \frac{\partial b_3}{\partial x_3} \right) dx_1 \wedge dx_2 \wedge dx_3$$

と表され、これはベクトル場の発散 div に対応する。

1 次微分形式の曲線に沿った積分

ユークリッド空間 $\mathbf{R}^n$ の領域 D のなめらかな曲線

$$\gamma : [0, 1] \longrightarrow D$$

に対する 1 次微分形式 $\omega = a_1 dx_1 + \cdots + a_n dx_n$ の積分を

$$\int_{\gamma} \omega = \sum_{i=1}^n \int_0^1 a_i(\gamma_1(t), \dots, \gamma_n(t)) \frac{d\gamma_i}{dt}(t) dt$$

で定義する。この値は、曲線 γ のパラメータ表示によらずに定まる。